

平成10年度総会・第16回静岡コロキウム顛末記

本年度の総会は、平成10年5月26日(火)にJR浜松駅南のサーラシティ浜松で開催されました。今年度は、午後に第16回静岡コロキウムを開催するため、午前10時からの役員会の後、午前11時から総会が開かれました。

まず、本年度は役員改選の年なので、会長・副会長その他の役員の選出にはいり、会長に鈴木孝典氏(巴川製紙所)、副会長に浜辺順彦氏(日本軽金属)及び市川右氏(中部ガス)が選ばれました。続いて新会長の鈴木孝典氏の挨拶、平成9年度事業の報告及び決算の承認を行いました。収入が伸び悩む一方で、支出は郵便代その他の値上がりなどにより確実に増加しているため、懇話会財政が逼迫しつつある現状が、会計担当幹事から紹介されました。この状況を踏まえて、本年度の事業計画と予算案を審議しました。その結果、静岡コロキウムを昨年度までより1件少ない2件、静岡フォーラムおよび企業技術交流会は昨年と同様1件ずつを、それぞれ主催行事として開催することになりました。これに合わせて、本年度の予算案が承認されました。

今年度は新しく「名誉会員」制度を導入することも総会で話し合われました。名誉会員は、本懇話会発展の貢献者の中で主に現役を退かれた方を対象に、長年の御貢献を顕彰するとともに、本懇話会の行事に自由に参加していただき、貴重な御意見を賜るために置かれるものです。審議の結果、規約を改訂してこの制度をスタートさせることとし、今年度は元会長の吉永勝也氏と元監事の宮野康氏を名誉会員に推挙することが決まりました。

引き続き、財政緊縮対策・会員数拡大対策などを含めた今後の懇話会のあり方について活発な意見交換が行われました。電子メール等の活用による通信費の節約や、コロキウムやフォーラムをさらに魅力的なものにするための幹事会の開催、懇話会のホームページ開設の検討など、数多くの建設的な提言が寄せられ、実り多い総会とすることができました。総会参加者の方々に感謝申し上げます。

午後からは会場を移して第16回静岡コロキウムを開催しました。今回のテーマは、「新しいエネルギー利用技術を考える」で、最初に静岡大学工学部教授の藤波達雄氏から「リチウム二次電池用ポリマー電解質材料の開発」と題する御講演をいただきました。高いエネルギー密度を持つリチウムイオン二次電池は、1991年に日本で発売されて以来、携帯電話等の急速な普及により生産が急増するとともに、排ガスの出ない電気自動車などへの応用などで注目を集めています。これに高分子固体電解質を用いるための原理と材料の開発について、藤波先生は実に明解に解説して下さい、将来的に最も高性能の材料として期待されるシングルイオン伝導性高分子について紹介して下さいました。きわめて興味深い御講演でしたので、講演後の質疑応答も非常に活発で、時間が足りないほどでした。

続いて、「都市ガスを用いた「サーラシティ浜松」の熱併給発電の現状と展望」と題して、中部ガス(株)浜松支店の齊藤氏を始めとする数名の担当者による状況説明と施設見学を行いました。まず、わが国において97年9月末で総発電容量の約1.8%を占めている熱併給発電の普及状況が、民生用・産業用別に詳しく紹介されました。その後、国の助成策をはじめとするわが国の熱併給発電を取り巻く環境の説明がありました。「サーラシティ浜松」の熱併給発電については、プール等への給湯など熱需要が大きいこともあり、比較的小型の設備であるにもかかわらず20%以上の発電効率を維持し、排熱回収率を合わせた総エネルギー利用率も年間を通じて60%以上を安定に得ている現状が報告されました。この内容を踏まえて、実際の施設見学に臨みました。

講演会場に戻り、引き続き、浜松熱併給(株)取締役の水野晴彦氏から浜松アクトシティ地下の地域冷暖房施設について説明を受けました。地域冷暖房は、従来の建物ごとに冷暖房する方式に比べて、電気やガスの使用量が少なくて済み、省エネや公害防止に役立つすぐれた特長があります。浜松アクトシティの地域冷暖房は、全国では100番目、静岡県では初めてで、中部地方では最大の設備ということで、興味深い説明をしていただきました。その後徒歩で講演会場から浜松アクトシティへ移動し、地下の広大な熱併給センターを見学しました。巨大な蓄熱槽やヒートポンプなど、ふだんは目にすることのない施設を見学でき、17時頃、すべての行事を終えて現地解散となりました。充実した1日でした。なお、総会・コロキウムへの参加者は30数名にのぼり、盛会でした。

参加して下さった皆様、講演して下さった講師の各先生方、また総会会場・見学等のお世話をして下さいました中部ガス(株)の市川右氏に厚く御礼申し上げます。

(静岡大学工学部 松田 智 記)



